



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 宮島喜文
 編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1~P3 全国「検査と健康展」2023 各地からの報告
 P4~P5 都道府県技師会 各地での取り組み（京都府編）
 P6 季刊誌『ピペット』に寄せられた感想をご紹介

全国「検査と健康展」(中央会場：滋賀県)

臨床検査のことと、それを担う私たち臨床検査技師のことを国民の皆様幅広く知っていただくために、日本臨床衛生検査技師会は、毎年11月に全国「検査と健康展」を全国で開催しています。本年度は新型コロナウイルス感染症が5類相当となり、中央会場の滋賀県をはじめ、47都道府県すべてで実施することができました。中央会場を皮切りに、本号より各都道府県技師会からの報告と会場の様子を順次ご紹介していきます。



検査体験、講演、検査説明・相談 各コーナーに多くの方が訪れてくださいました。

滋賀県臨床検査技師会では令和5年11月12日（日）イオンモール草津にて、中央会場として全国「検査と健康展」を開催しました。例年ではイオンホールの1会場でしたが、今年はインキュブ横という催事会場をサブ会場として2つの会場で行いました。

~楽しく知ろう臨床検査!! 体のヒミツを見よう!
全国 検査と健康展
 日程 令和5年11月12日(日) 10:00~16:00 参加費無料
 会場 イオンモール草津 2階 イオンモール・インキュブ横 草津市新浜町300

イオンモール
 特別講演: 七尾隆雄 先生(10時~12時) 九州大 100名
 小田 隆夫 先生(12時~13時) 100名
 特別講演: 辻野 浩二 先生(13時~14時) 100名
 辻野 浩二 先生(14時~15時) 100名

インキュブ横
 健康チェック・検査体験
 ヘリコプター検定
 血液検査
 尿検査
 尿糖検査
 尿蛋白検査
 尿潜血検査
 尿胆红素検査
 尿胆素検査
 尿潜血検査
 尿糖検査
 尿蛋白検査
 尿潜血検査
 尿糖検査
 尿蛋白検査

特別講演: 八田 告 先生
 腎臓のベストドクター

特別講演: 浦上 克哉 先生
 認知症のベストドクター

主催: 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 一般社団法人 日本臨床検査技師会
 協賛: 滋賀県臨床検査技師会 滋賀県医師会 滋賀県歯科医師会 滋賀県薬剤師会 滋賀県理学療法士会 滋賀県作業療法士会 滋賀県言語聴覚士会 滋賀県聴覚障害者支援センター 滋賀県ろうきん 滋賀県障害者福祉センター 滋賀県障害者就業・生活支援センター 滋賀県障害者スポーツセンター 滋賀県障害者芸術・文化センター 滋賀県障害者職業センター 滋賀県障害者福祉センター 滋賀県障害者就業・生活支援センター 滋賀県障害者スポーツセンター 滋賀県障害者芸術・文化センター 滋賀県障害者職業センター

今年中央会場ということで、ベストドクターに選ばれている八田告先生に腎臓について、またテレビなどでおなじみの浦上克哉先生に認知症について特別講演をしていただきました。地域の高校生に臨床検査技師を進路の選択肢に考えてもらえるよう、長浜バイオ大学の現役学生を相談役に招いた進路相談会や、臨床検査への関心を高めてもらうため、様々な検査機器を用いた検査体験や臨床検査専門医による検査についての説明・相談会などを行いました。

開催当日には今までにない参加人数で大盛況に終わることができました。真剣な眼差しで説明を聞きながら顕微鏡を見る子どもたちや、「とても良かった」「勉強になった」等のアンケートの回答が多数あり、健康に対して関心を持っていただき、臨床検査の仕事を広く知っていただけたと思います。

最後に、ご協力いただきました日臨技事務局の皆様、日本臨床検査振興協会の皆様、及び各社メーカー関係者の皆様ありがとうございました。

(滋賀県臨床検査技師会 谷 和也)

次ページより地方会場の様子を紹介します。

全国「検査と健康展」2023 各地からの報告 第1回

北海道



令和5年10月15日(日)、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行後初めての当会「検査と健康展」を札幌臨床検査技師会、北海道細胞検査士会にご協力いただき、札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」にて開催しました。地下鉄駅改札を出てすぐの好立地の会場であること、また札幌市白石区のキャラクター「しろっぴー」の着ぐるみを着ての勧誘も実施し、小さな子どもからご高齢の方まで幅広い世代の方にご来場いただきました。

健康チェック、検査説明・相談コーナーとして、血管年齢検査、視野検査、物忘れ相談プログラム、医師による健康相談を実施しました。また、展示コーナー、中高生の職業ガイダンスコーナー、アンケート回答者に対する景品交換コーナーを設けました。会場の来場者のみならず通行人の方に対しても、リーフレットやティッシュ等の配布を積極的に実施し、臨床検査技師の知名度アップにつながる活動を行いました。

ご来場いただいた方はそれぞれ、体験したい検査、お目当ての検査など思い思いに各体験ブースへ足を運ばれ、時に5分から10分程度の待ち時間ができることもあり、3時間の開催時間の中で各ブースともに100名前後の方に体験いただくことができ、盛況のうちに終了しました。

開催にあたり、ご協力いただきました実務委員の皆様、ご来場いただきました皆様に感謝と御礼を申し上げますとともに、得られた反省点を基に次年度の開催に向けて準備していきたいと思っております。

(北海道臨床衛生検査技師会 田中 謙次)

青森県



去る2023年11月19日(日)に、青森県臨床検査技師会では初めて「検査と健康展」を開催しました。今回は、県内のショッピングモールである八戸ショッピングセンターラピア内に、パネル展示と臨床検査体験ブースを設けて、市民の健康意識と臨床検査技師の知名度向上を目指し、本事業を行いました。300部の配布物は昼頃までには全て配布が終了しましたが、受け取ってもらえるのは比較的年齢層が高い市民であり、若い世代へのアプローチの方策については要検討と思われました。

臨床検査体験ブースでは、尿検査模擬体験、末梢血塗抹標本・細胞診標本の鏡検体験を市民の方に行ってもらいました。いずれも20名程の市民が体験し、尿試験紙の色の変化に驚くなど、「面白かった」、「勉強に

なった」などのたくさんの感想をいただきました。この体験ブースのために市外から足を運んだ家族もいました。両親に話を伺うと、子どもが将来の進路として臨床検査技師を考えているとのことでした。午後の時間帯であったため、リーフレットなどの配布物を渡すことはできませんでしたが、展示パネルを基に、臨床検査技師の業務内容や、国家資格取得までの道筋などを時間を掛けてじっくりと説明をしました。近年、県内の医療機関の多くは、臨床検査技師が慢性的に不足している状況であるため、是非国家資格を取得し、将来県内の施設で働くきっかけとなれば幸いです。

次年度は、より幅広い年齢層の方に体験ブースに足を運んでもらえるように、広報活動や、臨床検査体験の内容を再考してみようと思っております。

(青森県臨床検査技師会 須藤 安史)

岩手県



新型コロナウイルス感染症患者は県内で減少傾向にある中、インフルエンザが猛威を振り始めてしまい感染対策は継続して必要な中での開催となりました。当日は、あいにくの天候で冷たい雨に見舞われてしまいました。コロナ禍明け?で外出する県民も増えたこともあり、126名もの多くの方にご来場いただくことができました。

今回、展示および体験していただいた内容は、健康啓発パネルや臨床検査紹介パネルの展示の他に、感染対策を行いながら体験していただける内容を考え、「AED体験コーナー」と、「エコー体験コーナー」を設置しました。日々の臨床検査業務とは直結しない印象の「AED」ですが、一医療人としては重要な行為であり、一人でも多くの方が心肺蘇生法を身につけていただくことを目的として設置しました。実際に、中学生と父親の親子に体験していただきました。場面設定も行い、「もしお父さんが倒れていたら!!うする!!?」として行っていただきましたが、とても真剣に実技を行っていただきました。逆に企画した私たち側が感心させられるくらいの熱演でした。エコー体験は実際に機械に触れて、目に見える形を自分で画像として抽出できる面白さを体験していただけたと感じています。

参加スタッフもコロナ禍の前並みに増員し、日々の業務が忙しい中、臨床検査技師の知名度普及と県民の健康増進のために熱心に頑張ってくださいました。また、快くスタッフを送り出していただいた現場の方々にもこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(岩手県臨床衛生検査 川村 将史)

宮城県

宮城県臨床検査技師会による第8回「検査と健康展」は令和5年11月12日イオンモール名取にて10時から14時まで開催されました。今回は小中学生を対象にした企画を用意し、近隣の小中学校に開催案内を通知を行いました。会場も子ども向け店舗の近くにあり、約120名の親子連れを含む方々が訪れました。

体験企画としては顕微鏡での標本観察や超音波検査体験、血管年齢、野菜摂取状態測定を準備し、他に検査技師の仕事紹介パネルの設置、臨床検査専門医（2名）による検査結果説明・相談など例年以上に充実した内容となりました。

会場では実際に子どもたちが顕微鏡を覗いて実際の血液塗抹標本や病理組織・細胞診標本を観察するコーナーや、超音波プローブを疑似検体に当てて画像を描出したりする体験コーナーを充実させました。また、検査技師気分になってみる「白衣を着て写真撮影」コーナーなど、どの企画も好評でした。血管年齢やベジメータによる野菜接種状況検査は大人も参加することができ、子どもから若い人、高齢者まで様々な年齢の方々が測定を受け、中には結果に不安を覚えた参加者もいて健康相談を受けられていました。

子ども達がこの体験企画を通して、少しでも臨床検査技師という職業に関心を持ってもらえることを願っています。

（宮城県臨床検査技師会 佐藤 正樹）



山形県

山形県臨床検査技師会は、全国「検査と健康展」を11月18日（土）にエスパル山形で開催しました。開催場所は、山形駅に直結する商業施設の催事場を借りて行いました。告知のための館内広告作成や館内放送でイベントをPRしていただいたため、昨年より来場者数を増やすことができました。

内容は、超音波による骨密度測定、心電計を展示してデモ波形の説明、新型コロナウイルス・インフルエンザウイルスの抗原検査キットを準備して使用方法の説明、パネル展示、顕微鏡標本の説明などを行いました。また、臨床検査技師の仕事を紹介するDVDを映写しながら、パンフレットを配布し、多くの人に認知してもらい医療職としてもっと身近な存在になれるようアピールしました。

来場者の内訳は、中高年層が多く若年層は少なかったです。みなさん健康への意識が高く私たちの説明にも関心をもって聞かれているようでした。

本事業の目的である、小学生、中学生、高校生を対象に体験型の展示を行い、臨床検査に興味を持ってもらうという点については、課題が残る結果となりました。来年度は、実際に検査を体験してもらいより興味がわくような企画を実施したいと思います。

（山形県臨床検査技師会 佐藤 謙）



秋田県

全国「検査と健康展」in 秋田市を令和5年11月11日（土）にイオンモール秋田3階イオンホールにて開催しました。ショッピングモール内での開催ということもあり家族連れで訪れる方も多く、例年よりたくさんの小中高生が来場してくれました。

「検査体験コーナー」では尿試験紙の色が変わる様子を観察したり、顕微鏡や超音波機器を実際に使ってみたりと楽しみながら検査を体験していました。「学校紹介コーナー」では検査技師になるにはどんな学校があるのかをパネルで紹介、準備したパンフレットをたくさん持ち帰る高校生もいて、将来の進路を考えるうえで良い情報提供ができました。

また健康づくりや生活習慣病予防の意識を高めていただくため「血管年齢測定コーナー」も設け、検査専門医の健康相談や保健師による血圧測定なども併せて行いました。13時から16時までの短い時間での開催ではありましたが、70名の方が来場され、臨床検査技師を知っていただく良い機会となりました。

（秋田県臨床検査技師会 佐藤 多佳子）



福島県

全国「検査と健康展」IN FUKUSHIMA。郡山市での開催は、4年ぶり、6度目となります。今回の会場は、市のほぼ中央にある大型商業施設の「イトーヨーカドー郡山店」さんのスペースをお借りしての開催です。検査項目は、「血圧検査」「貧血検査」「体成分検査」「顕微鏡検査」と「健康相談」。検査結果は、検査を担当した臨床検査技師が説明を行いました。検査機器は、新型コロナ・インフルエンザ感染症を考慮し、身体の接触が少ない検査を選定し、十分な感染対策を行ってのイベント開始となりました。

郡山のイメージキャラクター「がくととくんとおんぷちゃん」と一緒に店内を廻り「検査と健康展」を広報するとたくさんの方に来場いただきました。店内の客層の年齢が比較的高く、日頃から健康を意識しているという来場者が多い印象がありました。事後のアンケート調査では、「優しく検査や説明ありがとうございました」（20代女性）、「自分の体のことを知る良い機会になりました」（50代男性）。来場者の中には、「検査と健康展」の参加回数が、2回～5回の方がおり、あらためて地域の健康と臨床検査についての正しい知識とその普及・啓発ために根づきつつあるイベントだと実感しました。

（福島県臨床検査技師会 菅野 浩之）



都道府県技師会 各地での取り組み(京都府編)

全国47都道府県それぞれに臨床(衛生)検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、京都府臨床検査技師会で製作された、臨床検査技師の“しごと”を伝えるブックレット「臨床検査技師 AtoZ」について、紹介いたします。

「臨床検査技師 AtoZ」制作秘話

一般社団法人 京都府臨床検査技師会
滝本 寿史

AtoZとは、「全部の」「全ての」「全部含まれた」という意味をもつ言葉です。「臨床検査技師 AtoZ」は、なんだかよくわからない臨床検査技師の“しごと”をAからZまで26個のキーワードで解説しています。

「半農半X」という生き方を世に広めた塩見直紀さんは、AtoZという手法を活用して地域や人、ものごとの“魅力の可視化”にチャレンジしています。若者が住みたいまちAtoZ、明智光秀公と福知山AtoZ、丹波の漆かきAtoZ、綾部コミナスAtoZ、自分らしく生きるを支える作業療法士AtoZ、これからを生きるためのAtoZなど現在まで、70を超える「AtoZ」の制作に関わっています。私は、塩見さんと中学・高校の同級生で、普段はナオちゃんと呼んでいます。そのナオちゃんが「なんかおもしろいことやってる、いつかなんかのAtoZを作ってみたい」と思っていました。

京臨技北部学術発表会は、通称「北部学会」と呼ばれ、北部研究班が中心になり毎年開催しています。

「臨床検査技師 AtoZ」は、その北部学会30周年を記念して企画制作しました。その背景には、京都府北部地域における臨床検査技師の人材不足・人手不足があります。学生や市民の方に臨床検査技師を知ってもらい、臨床検査技師を目指す人を増やしたいという目的がありました。

コロナ前の2019年11月、第30回京臨技北部学術発表会で「ワークショップ～臨床検査技師 AtoZを作ろう～」を開催しました。参加した63名が26個のキーワードについて話し合いました。たとえば、A(あいさつ、安全安心、ありがとう)、B(血液、微生物、培地)、C(セル、コミュニケーション、クール)とか、そんな感じです。その後、参加した皆さんから解説文や写真を提供してもらい、編集作業を進めました。編集作業は、「臨床検査技師 AtoZ研究所」が担



臨床検査技師の視点で“しごと”に対する 思いを言葉にした「AtoZ」

※配布に関するご相談は、京都府臨床検査技師会まで

当しました。この研究所もナオちゃんの「1人1研究所」のコンセプトから誕生したもので、メンバーは、所長の私、京臨技理事の園田真之さんと小畑義規さん、京臨技顧問の白波瀬浩幸さん。この4人で最終的にキーワードを選択し、解説文の校正、またAtoZ以外のページの編集を行いました。

サブテーマは宇宙、表紙は月面です。なんで月面？ どうして宇宙？と思われるかもしれませんが。30年ほど前に、NHKで「驚異の小宇宙人体」という、人体を宇宙にたとえて探究するドキュメンタリー番組が放送されました。その番組を見てから、人体は宇宙、臨床検査の仕事にも「宇宙」を感じることがあります。血液検査は、彼方の臓器(惑星)の異常をデータで届けてくれます。顕微鏡で見るミクロの世界や、超音波で見る臓器はまさに無限に広がる宇宙そのものです。シュウ酸カルシウムのキラキラした結晶を見て、スターウォーズのテーマが流れてくるのは私だけでしょ(笑)。

皆さんの解説文にも、たくさんの素敵な言葉があります。B（基本的かつ重要なミッション）、J（いつも笑顔で）、M（今も未来も病気に立ち向かうスタイルは変わらない）、N（がんばっている仲間がいると自分もがんばれる）、R（浪漫のある仕事）、T（すべての人に感謝）、W（大切な使命）、Y（夢をもって生きよう）、Z（日々前進）、前向きで希望のある言葉です。写真は、「京都」にこだわって選びました。ほぼ京都府内で撮影した写真を掲載しています。どこの写真か、探してみてください。

ワークショップのキーワードを導く作業では、たくさんの「あるある」が出てきました。AtoZって、ちょっと「あるある」に似ています。そんな「臨床検査技師あるある」をAtoZ的に紹介しているページもあります。私が気に入っているのは、B（意外と文系）、H（探求心が半端ない）、J（結晶が宝石に見える）です。AtoZを読まれた臨床検査技師の方からは、「あるある」のページがおもしろかったとよく言われます。

巻頭のメッセージは、白波瀬浩幸さんに書いていただきました。「なんだかよくわからない臨床検査技師の“しごと”を解説します」「ちょっとわかった気がすると感じていただけたら、ちょっとうれしいです」…私は、この言葉のゆるさとユーモアに嫉妬してしまいました。そして、「なんだかよくわからない“しごと”」を拝借して、これからの広報活動に使わせてもらおうと思いました。

構想3年、制作1年。京都の臨床検査技師の知恵を集結して、今までにない職業紹介の冊子ができました。たくさんの学生、市民の方に読んでいただき、臨床検査技師の仕事を知ってもらい、臨床検査技師にな

りたい人が増えればよいなと思っています。あと、臨床検査技師の方で、「今の仕事おもしろくない」「本当にやりたい仕事しているかな」「こんな人生でいいのかな」って思っている人がいたら、この「臨床検査技師 AtoZ」を読んで、臨床検査技師という仕事を見つめ直すきっかけになればいいなと思っています。京都にはこんなおもしろいことを考えている人たちがいますよ。

最後に、「臨床検査技師 AtoZ」を手にとって読んでみたいと思われた方、着払いですがお送りいたします。また、臨床検査技師の広報活動に利用したいと思われた方、全国どこでも配布可能です。ご相談ください。

「臨床検査技師がどんな人」か“ちょっと”興味を持っていただけるよう、日臨技でも会館や全国「検査と健康展」などイベントでの配布を予定しています。



12×12cmの手のひらサイズのブックレットです。

第73回 **日本医学検査学会** in 金沢

命を見つめ・未来を拓く
One step ahead
臨床検査

2024年
5.11(土)・12(日)
石川県立音楽堂 他

学会長 油野 友二 (北陸大学 医療保健学部)

事前参加申込受付中！

受付期間

銀行口座引き落とし：
2024年3月12日(火)まで
(引落日：3月27日(水))

クレジットカード：
2024年4月4日(木)まで

詳細は学会ホームページをご確認ください。

当会では国民の皆様へ臨床検査技師の存在をもっと知っていただくため 季刊誌『ピペット』を発行しています。

2023 秋号 (vol.41) にも読後感想として、たくさんの感想や応援メッセージをいただきました。

医療現場で働く会員の皆様にも励みにしていただきたく、寄せられたメッセージをいくつかご紹介いたします。



- 「なんで私がこんな病気になるの？」病を得てからよくよ考える私。そんな時『ピペット』を読んで、臨床検査技師さんのハートの温かさについて気付くことができたように思います。寄り添ってくださっている臨床検査技師さんの働きぶりに励まされて、私も治療がんばります！（三重県・女性）
- 将来、臨床検査技師を目指そうと思っています。肝臓の働きや便の性状など初めて知り、よけい興味を持ちました。（沖縄県・女性）
- 私の教員時代の教え子が二人、臨床検査技師で頑張っています。『ピペット』を読む度に彼らの顔が浮かびます。ガンバレ!! たのむぞ!!（広島県・男性）
- たまたま行ったショッピングセンターでイベント（「検査と健康展」）に参加しました。臨床検査技師のことをよく知りませんでした。子どもが体験コーナーに参加し、大変勉強になる機会でした。ぜひこれからも皆様がんばってください。（群馬県・女性）
- 臨床検査技師です。仕事の話をするとうれしく「レントゲンとるの?」と勘違いされます。多くの方に臨床検査技師の仕事が広まると嬉しいです。（東京都・女性）

『季刊誌ピペット』を配布いただける施設を募集しています。冊子・送料は無料です。イベント等での単発の配布も承ります。

ご協力いただける方は右のURLから「配布協力施設登録申込用紙」をダウンロードし、ご記入の上、当会事務局までFAXまたはメールでお申込みください。過去号をご覧になりたい方はQRコードからも閲覧いただけます。

<https://www.jamt.or.jp/books/pipette/>

Fax: 03-3768-6722

mail: pipette@jamt.or.jp



（編集後記）全国の「検査と健康展」開催報告、次号に続きます。ぜひ来場者に手渡してアピールしたい「臨床検査技師 AtoZ」（京臨技HPにPDF版掲載あり）。“臨床検査技師”そしてその“しごと”には愛と夢がいっぱい詰まっています。26個のキーワードで、臨床検査技師のしごとを多面的に表現。新たな視点を得たり、再発見したり、初心に帰ったりと言葉の力を感じました。私が気に入った「あるある」は、K「虫は怖いのに寄生虫はかわいい」です。皆さんのお気に入りには？（鈴木）